

北里大学病院・旧北里大学東病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	神経内視鏡による血腫除去術を行った成人出血発症型もやもや病患者の臨床的特徴および転帰についての単施設後方的研究 (B23-091)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部脳神経外科学 講師 小泉 寛之
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	もやもや病(moyamoya disease: MMD)は、両側内頸動脈終末部と付近の頭蓋内主幹動脈が進行性に狭窄・閉塞し、代償性に脳底部に異常血管網の発達を認める原因不明の疾患です。血管閉塞による脳虚血発作(虚血型)と側副血行路の破綻による頭蓋内出血発作(出血型)という対照的な発症形態をとります。虚血型には外科手術(脳血管バイパス術)の有用性が広く認められていますが、再発率が高く予後不良である出血型への対処法は長年の間、未解決でありました。近年発表された Japan Adult Moyamoya (JAM) Trial の結果により、出血型もやもや病に対する直接バイパスの有効性が証明されました。直接バイパスの適応は、虚血型のみならず出血型 MMD にも拡大しつつあります。しかし、バイパス手術の必要条件として出血後に機能的な予後が良好になることが求められます。これまで、我々は出血型 MMD における内視鏡下血腫除去の重要性を報告してきました。出血型 MMD 症例に予防的なバイパス手術をする上で転帰は重要であります。急性期に内視鏡下血腫除去術を施行した出血性 MMD 患者の転帰については未解明であります。そこで、成人出血型 MMD 患者に対して、急性期内視鏡的血腫除去術を行った場合に、その後のバイパス手術の適応となる例がどの程度得られるかを検討します。
調査データ 該当期間	2013年5月1日から2028年12月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	上記期間内に成人出血型もやもや病で当院に入院され内視鏡下血腫除去術を行なった患者さんです。
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2013年5月1日から2028年12月31日までの紙カルテ・電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	北里単施設研究であり、他の研究機関へ情報提供は行われません。
利用又は提供を開始する予 定日	利用又は提供開始予定日： 研究機関の長の許可日から
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究の遂行のための費用は、脳神経外科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 所属・職位:脳神経外科 講師 担当者:小泉 寛之(コイズミ ヒロユキ) 電 話: 042-778-8111</p>
<p>備 考</p>	